

2016年度 後期				リフレクションペーパー			
学科名	電気通信工学科						
科目名	日本語表現法応用Ⅱ						
科目区分	リテラシー科目		単位数	1	開講時期	後期	
必修・選択の別	必修科目						
担当者	萬川正勝						
授業の到達目標 (シラバスから)	・日本語の特性を正しく理解し、使うことができる。 ・日本語の文法を理解し、正しく使用できる。 ・ビジネス敬語を正しく使うことができる。 ・論理的な表現とは何かを理解し、記述できる。 ・上記のような項目を学習し、日本語表現の応用力を修得する。						
日程と内容	第1回：講義概要および履修心得・学習方法 第2回：書き言葉の技能 応用 要旨 第3回：書き言葉の技能 応用 要約 その1 第4回：書き言葉の技能 応用 要約 その2 第5回：書き言葉の技能 発展 レポートの書き方 その1 第6回：書き言葉の技能 発展 レポートの書き方 その2 第7回：書き言葉の技能 発展 論証 その1 第8回：書き言葉の技能 発展 論証 その2 第9回：話し言葉の技能 基礎 敬語 1 第10回：話し言葉の技能 基礎 敬語 2 第11回：話し言葉の技能 基礎 敬語 3 第12回：話し言葉の技能 応用 相手を考えて話す 第13回：総合応用 1 第14回：総合応用 2 第15回：定期考査 第16回：定期考査の解説・授業アンケート						
成績評価基準	定期試験	50%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題 演習	50%	計			100%	
授業到達目標の達成度	・ビジネス敬語の基礎知識は概ね身につけているが、その応用である、場面に応じて使い分ける点で不十分であった。 ・論理的な表現の重要な要素である論証については、練習不足であった。						
反省点	・授業内容に触発されて自主的に日本語の理解を深めていくことは、不十分である。継続課題である。						
来年度の計画	・ビジネス敬語の修得のために、より多くの場面を想定しての練習を重ねていく。 ・論理的表現の大きな要素である論証について、そのパターンを精選して、より重要なパターンについて多くの練習を重ねる。						
授業評価アンケートに対するコメント	・課題をきちんと提出したことが、評価点のアップにつながった。						
履修登録者数	65 名	定期試験 受験者数	60 名	合格者数	57 名	合格率	95%